



3歳Hくんのパパ

気怠さを感じながらの生活でした。家でも会社でも、何かもやもやして引っかかる。これから希望が満ち溢れているのに、何とも言えない不安が見え隠れしていました。

1歳の時に児童館で紙芝居をしてくれたのに、息子が知らんぷりをしていた光景を思い出します。他の子は次に何が出てくるか興味津々で紙芝居ににじり寄っていたのに。まだ1歳になったばかりじゃないか、とのんびり構えていました。きっとしばらくしたら喋ってくれる、私も言葉が遅かったので大丈夫だと、息子のこれからの成長を信じていました。

しかし区の1歳半検診で言葉の遅れ、指示に対する反応不足を指摘され、その後の親子教室で専門家による検査で改めて同様の指摘を受け、いよいよ深刻に考えざるを得ない状況になりました。妻が産後でなかなか体調が戻らず、体力がない状態での育児でしたので、この時が最も大変な時期でした。

男の子は言葉が遅くても大丈夫、幼稚園のプレでも外に出たいと泣いて走り回っていても、ただ環境に慣れてないだけと自分に言い聞かせていました。当時は息子に今できることを親として何をすればいいかわからず、ただ情報を集めるのに必死でした。

2歳になり近くの幼稚園のプレに面接に行った際に、机の上のパズルで上手に遊んでいたのに、園長せんせいが「お名前は？何歳ですか？」と話し掛けられても恥ずかしそうにただ黙ってせんせいの顔を見ているだけでした。

また思い出すのは、その冬に本屋に行った際のことです。電車の図鑑を両手にあーあー言いながら、私に買ってくれる様、必死にねだっていました。私は「“ほん”と言うまで買わないよ」とひどいことを言ってしまいました。息子の落胆した顔が今でも忘れられません。「“ほん”」と言えないのは息子の責任ではなかったのに。

運動が得意な方だったのでよく公園で遊びました。電車で遠くに行き、たくさん一緒に歩きました。しかし、お友達を小突く、顔の表情が何だか固い、帰り道を変えると癩癩を起こすといった状態でどうしたらいいのかわからないことも多く、発達の促進に効果があると言われるリトミック教室に行っても座っているだけで無反応でした。

言葉を話せず自己表現ができないのが息子を苦しませる原因と考えました。何とか助けてあげることができないかと思い、妻が購入した本に書いてある方法を自力で試しましたが、目立つ効果はありませんでした。息子と接する時間を長くすればいいの





ではと思い、仕事を早目に切り上げ帰宅し、朝は早起きをして息子と遊びましたがやはりうまくいきません。そんな高い壁に直面し、まずはこの現実を真摯に受け止めることにしました。夫婦の努力では限界があるのを認め、外部のお力添えに頼るべくギアを切ったところで、妻が”もうひとつのおうち”を探し出してくれました。せんせい方のプロフィール、レッスンの内容等、暖かさを感じるホームページでした。

詳しく知りたいと思いすぐに休暇を取り、妻と”もうひとつのおうち”に見学に行きました。せんせいが真剣に子供達と向かい合い、子供の自発性を促される姿を拝見し感嘆しました。単なる技術論では無く、子供の心そのものに時間をかけて根気よく働きかけ、やる気を引き出させる大切さを教えて戴きました。また、せんせい方からは「まずは、人の真似をすることから始めましょう。まだ、Hくんはお友だちやせんせいの真似をしないので。」とご指摘を受けました。その意味が当時はピンと来なかったのですが、せんせいを信じ、”もうひとつのおうち”への入園をお願いしました。我々はあてのない幸運が来るのを座して待つよりも、すぐに行動するしかなかったのです。

教室の初日、息子は泣き続けていましたが、まずながせんせいから「最初はみんなこんな感じですよ」と優しく話してもらい、気持ちがとても楽になりました。“もうひとつのおうち”に通って1ヶ月位だったのでしょうか、帰宅すると息子が“どうぞー”と言いながら水を持ってきてくれました。その時の衝撃は忘れられません。息子が喋ってくれるとは夢にも思わなかったからです。妻に聞くとせんせいがレッスンで「どうぞ〜、どうぞ〜」っと物を渡す声掛けをして戴いたからでした。また、水泳教室に行った際のことです。せんせいの準備体操を見ながら、小さい体であれこれ模倣して体操をしているのではないですか。人の真似を楽しそうにする息子の様子に驚きながら見入ってしまいました。

“もうひとつのおうち”は専用サイトを駆使してきめ細やかな対応をしてくれまます。レッスン後に毎回アップされるレポートを帰宅後の楽しみです。実に子供をよく観察されています。レポートは様々なバックグラウンド、言語療法、心理学、理学療法、作業療法の知見を持たれた複数のせんせいが書かれたものであり、多面的に息子を見て戴いている安心感があります。子育てで分からないことは、レッスンの度に専門のせんせいにアドバイスを受けることができます。レポートには当日に出来たこと、そして現在の課題、家庭での取り組み方が簡潔に書かれており、それを参考に週末の息子との関わるようになりました。

とても地道ですがこのような確かな日々の積み重ねが息子の成長に繋がってきたと今は思います。その後の息子の言葉の発達は目を見張るものがあり、言葉でのコミュニケーションと共に息子の心の成長が感じられ、集中力や落ち着き、表情の豊かさが出てきました。





やがて半年が経過し、幼稚園の出願の時期となり、ますながせんせいに進路を相談しアドバイスを戴きました。説明会や運動会などにも積極的に参加して園を絞っていききました。“もうひとつのおうち”で半年間成長したことの全てが面接でも生かされ、終始落ち着いた態度で臨むことができ、お陰さまで第一志望の幼稚園に合格することができました。

この半年間を振り返り、息子に対して思うようにいかない時もあり、落ち込むこともありましたが、“もうひとつのおうち”と出会う前のように孤独の中で悩む状況にならないことが大変心強いです。同じ様な悩みを抱えておられる方は、迷わずに“もうひとつのおうち”にご相談されることをお勧め致します。一度会ってみて専門家の意見を聞いてみて下さい。一番の近道だと実感します。

ご父兄の皆様にはこの“もうひとつのおうち”での時間が実りあるものになりますことを心から願っております。

